#80　福音集会　　2018.01.21

— 名をもって呼びかける神 —　　東住吉キリスト集会　高原 剛一郎 氏

今年の１回目の日曜日は１月７日でした。あっと言う間に 21 日。その時、久し振りに福音集会に来られた方がいたので、１月７日ですから家内が「明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします」とご挨拶しました。そしたら、エライびっくりされて「クリスチャンでも、明けましておめでとうって言っていいんですか?」。これを聞いて彼女もびっくりしたし、私も「へえーっ」。
クリスチャンでもお雑煮食べます。おせちも食べます。クリスチャンでもお年玉、出します！ 額はそれぞれ違いますが。

クリスチャンになるという事は「日本人が伝統的に守ってきたものを、全否定しなければならない」とか「日本人をやめてしまう事だ」と勘違いしている方が、案外多いんじゃないでしょうか?
「自分のご先祖をものすごく悲しませる事を決心できないと、クリスチャンにはなれない」。そう考えている方がおられたら、それは誤解です。私は「クリスチャンほど、我々の先祖を喜ばせる生き方はない」と確信しています。

伝統/Tradition。これを英和辞典で引くと意味が 2 つあります。「伝統」と「因習」。伝統とは守るべき良い価値観の事。因習とは捨てた方がいいが、時間が長く経っている悪い習慣の事。Tradition の中には、良き伝統と悪しき因習の両方がある。
日本人は伝統を大事にする…。最近はどうか分からないけど。僕は、どちらかというと大事にする人だと思います。年賀状は忙しいから 8 年前から止めてるんです。でも、日本が大好き。

そういう事を考えながら本屋さんで本を見ていたら、『日本の伝統の正体』という本がすごく面白い。
この私が買いました。立ち読みじゃない。半分くらい読んで、もう覚え切らないと思って。
それを読むと、日本人が先祖伝来、古事記・日本書紀の時代から、ずっと続いている事だと思っている伝統の殆どは明治以降からです。殆どそうですよ。

私が一番衝撃的だったのは、初詣のルーツ。大昔から三が日、神社仏閣に行ってパンパンとやって、「これが日本人の伝統です。それができないのは日本人として失格!」みたいなイメージがあるなら、そうではないのです。実は、初詣が最初に取り入れられたのは 1872 年。この年に鉄道の東海道線が開通しました。それ以前は、鉄道はなかった。初めて、東京の新橋から東海道線が走って行き、東京から神奈川県、現在の川崎市に当たる所に川崎大師という真言宗のお寺があって、結果、そこに行くアクセスがすごく良くなりました。

開通した年の 1872 年は、東京から見て川崎の方向が恵方（えほう)だった。恵方、分かりますか? 恵方巻の恵方。これは毎年、干支（えと)によって変わりますが、縁起の良い方角。それで１月 21 日の縁日の時に、アクセスもいいし、縁日もやっているし、こっちが縁起がいいからという事で、開業以来のものすごい数のお客が汽車に乗ってくれたんです。荒稼ぎ。何回もピストン輸送するのですが、それでも満員。汽車が追いつかないほどたくさんの人。これで鉄道会社が「良かった!」
因みに、明治時代の鉄道会社は、ほぼ全部私鉄です。JR じゃない。JR はずっと後。

それで、鉄道会社はずいぶん助かったわけですが、一つ問題がありました。川崎方面が恵方になるのは 5 年に１回しかない。次に、こんな大入り満員のお客さんが来るのは 5 年先。それは困った。という事で、鉄道会社の経営陣が集まって討議しました。

「できたら、毎年来て欲しいよね。毎年人が殺到するように、恵方とは関係なしに、正月 1 日から 3 日までは初詣と銘打って、大キャンペーンしようよ!」。それで始まったのが初詣なのです。つまり、初詣は神社やお寺が決めたんじゃなくて、鉄道会社が乗客を増やすために張ったキャンペーン。
鉄道会社の陰謀に皆様が見事にはまり、そして「日本人が先祖伝来ずっと続けてきた。」そんな事はない。東海道線の爆発的集客を見て、日本全国の全ての私鉄が、“三が日は初詣”というキャンペーンを始め、それがくまなく広がって、現在の初詣に至ったのです。そんな話が、次から次から出て来る本。

「クリスチャンになって、真の神様だけを礼拝する。偶像を拝まない。まして、三が日には行かない。だけどそれは、日本人としてご先祖様に悪い!」。でも、先祖伝来と言われているものも、日本人の極々最近の先祖はそうしたかも分かりませんが、元を辿って行けば、根拠があるものではないのです。
日本人のルーツをずっと遡って行ったら、結局どこに行きますか? アダムです。アダムとエバ。
人類最初の人間です。そこから日本人も出てきました。アダムとエバのずっと子孫にノアがいますね。
ノアからセム、ハム、ヤフェテが出て、そこから全人類が分かれていくので、アダムもエバもノアも日本人の先祖です。

我々の先祖のアダムもエバもノアも、聖書の神を信じていました。我々の先祖の先祖は聖書の神・私たちを造った方・人間が作った神ではなく人間をお造りになった方・あなたの作者・あなたの命のルーツ。
この方を礼拝していた。だから、先祖を一番喜ばせる生き方は、先祖の根本にいた人たちが信じていた神に立ち返る事です。
クリスチャンになるという事は、日本人をやめる事ではありません。日本人として完成する事です。
世界をお造りになった原点に戻って行くという事なんです。

聖書の神様は目に見えない・手で触る事もできない・そして耳で聞く事ができない。でも、世界をお造りになった人格的な方。美しい作品は、美しい感性を持っている人が作るとは限らないですよね。
僕はクラシックではバッハが一番好きです。でもバッハは、ものすごく喧嘩っ早かったんですよ。
自分の音楽の授業を生徒がまともに受けないからと言って、「おまえら、なんだ、その授業態度は! ちょっと前に出て来い!」。生徒たちは年上です。「出て行ってやらぁ!」。彼は刃物で決闘するんですよ。
ところが仲裁者がいて、「クリスチャンがそんな事してはいけない。」「そうだね。」
言われなかったら止まらないバッハ。頑固そうな顔してない? 星飛雄馬（ほしひゅうま）みたいな眉毛。

モーツァルトは非常に尾籠（びろう）な話が大好きで、こういう所で余り言いたくないけど、ウンコに関する手紙が多い。いとこのお姉さんに、「ウンコ、ウンコ、さぁウンコ。早く来ないと食べちゃうぞ。」
もっとスゴイ事を言っているのですが、品位を落とすのでこれ以上言いません。
彼のメロディアスな曲と、彼が書いている手紙の下品さ。「美しい作品を紡ぐ人は、美しい事ばかり考えている」とは限りませんよ。

この自然界を見ていると美しいですね。神ってどんな人格なんだろう。これは、人の側からあれこれ推測しても分かりません。私が何を考えているのか・私の思想が何なのか・価値観が何なのかというのは、私自身が皆さんに内緒にしようと決心したら分かりません。でも、私自身が打ち明けようと思って、言葉をもって告白するならば伝わります。

神様って一体どんな方なのか? 神自らが人に分かるように言葉として残して下さったもの・神の言葉が記録されているものが聖書です。従って、聖書を知るという事は、神の本心を知るという事。目には見えなくても、読む事のできる聖書を通して、神様の心に触れる事ができるのです。

今日のテーマは『名をもって呼びかける神』。それはどこに書いてあるか?
旧約聖書イザヤ書 43:1 **だが今、主はこう言われる。ヤコブよ、あなたを創造した方、イスラエルよ、あなたを形造った方が。「恐れるな。わたしがあなたを贖ったからだ。わたしはあなたの名を呼んだ。あなたは、わたしのもの。」**
神はユダヤ人に向かって、「名前で呼んだ。」「わたしはあなたの名を呼んだ。」
名を呼んで、私たちに呼びかけて来る神様。これが聖書の神です。

戦後間もない時、ある宣教師が日本人の家を訪問した時、「ミセス・オオイさんもここに呼んで下さい。」と言うのです。「ミセス・オオイさんって誰ですか?」「あなたの奥さんです。」「私の妻の名前はサチヨです。オオイではありません。どうしてオオイなんですか?」「この前来た時、『おーい、お茶!』『おーい、風呂!』『おーい、熱い!』『おーい、のど渇いた!』って。私は、妻を呼ぶ時はファーストネームで呼びます。だから、オオイさんかなと思って」。皆さんはどうですか?

僕は、家で家内を呼ぶ時は名前です。ファーストネーム。ところが、彼女が私を呼ぶ時は「高原兄(けい)」なんですよ。(＊クリスチャンは神の家族なので、男性を〇〇兄弟・〇〇兄、女性を〇〇姉妹・〇〇姉と呼ぶ事がある) これは、公的な名前でして。プライベートな空間で、公的名称で呼ばれるとピシッとなって、「メッセージタイム!」みたいな。でも、もう慣れました。「高原兄!」「ハイ!」って感じ。そんな夫婦ある?

「わたしはあなたの名を呼んだ」と書いてあるのですが、ここに 2 種類の名前がありますね。
1 つ目はヤコブ。もう 1 つはイスラエル。これは同一人物です。これはユダヤ人の先祖の名前なのですが、彼は 2 つの名前を持っていました。生まれた時につけられた名前はヤコブ。その後神様によって改名され、イスラエルという新しい名前が与えられました。

ヤコブには意味が 2 つあります。第 1 番目の意味は『踵(かかと)』。彼は双子で、生まれる時に、お兄ちゃんの踵をつかんで出て来たのです。かかと。どんな名前や!?(最初の“か”にアクセントを置いて)かかと。高原かかと。そんな奴は…。

第 2 番目の意味は「騙す(だます)」。ヤコブとは「踵で騙す」。そういう名前。人を押しのけて、先に出て行くお兄ちゃんの踵をつかんで、横入りしよう・前に出よう・割り込んで行くという性質。
それだけでなく、割り込むためには手段を選ばないで、肉親であったとしても、騙しというテクニックを使うという汚さ。彼が持って生まれた性格には、そういう嫌な面・悪い面・罪深い面がありました。

ヤコブよ、あなたを創造した方、イスラエルよ、あなたを形造った方が。
同時にイスラエルと書いてあるでしょ。「イスラー」は「争う」。「エル」は「神」。
イスラエルとは「神と争う」。神と争って勝ったからイスラエル。ですが、「神が戦って下さる」と読む事もできるのです。

昨年末から日馬富士(はるまふじ)問題、相撲のごちゃごちゃした事がありましたよね。特に、貴乃花部屋がずいぶん注目を浴びていますが、この部屋の力士には全員「貴」が付いている。自分の弟子は家族みたいなものだから、親方の名前を付けるのですね。

ヤコブはイスラエル。エルが付いている。エルは神の意味。「本当は騙すような卑怯なところがいっぱいあるけれど、わたしはあなたの事を愛しているぞ! 先祖の契約のゆえに、あなたの事を愛しているぞ! あなたにわたしの名前を付けてイスラエルだ!」だけど、イスラエルの正体にはヤコブの面があるんです。

イザヤ書を書いたイザヤは2700年くらい前の預言者です。当時のユダヤ人は真の神様に対して無関心。「神? そんなん、要らんわ。」「俺たちはオレたちでやっていく!」偶像礼拝に走り、ユダヤ人としての契約を破り捨ててしまい、創造主にひどく反逆する民となっていました。そのユダヤ人たちに対して、「だが今、主はこう言われる。ヤコブよ、あなたを創造した方、イスラエルよ、あなたを形造った方が。」「あなたはひどい事をやっている。でも、わたしにとってイスラエルなんだ。あなたは騙す人、ヤコブのままじゃないか。でも契約のゆえにイスラエルだ。」

ここの葛藤する神様の呼びかけを見る時に、あるエッセイを思い出します。プロミスというサラ金、今はそう言わない? サラリーマン金融、一緒や。そこが毎年、『約束』というタイトルでエッセイを募集するんです。プロミス大賞。僕は、そういう所から借りた事は1回もないですよ。でも、このエッセイは毎年読んでいます。毎年、力作。

それで数年前の、サダオさんという名前の50代男性が書いたエッセイを忘れる事ができません。
うろ覚えですけど。彼の奥さんは、左半身不随で重度障害者。右手で杖を突くと数メートルは歩く事ができるのですが、普段の移動は車椅子。それを押すのが夫である彼の役目です。

ある時、夫婦で名古屋の地下鉄に乗りました。車椅子専用スペースにセットして、彼は何の気なしに妻の杖を持って、もたれるようにして立っていたら、その様子を見ていた若い女性が「よろしかったら、こちらにどうぞ」と言って、サダオさんに席を代わってくれました。足が不自由だと勘違いしたのです。その時「イヤイヤ、私は付き添いですから」と言えばいいのに、「そうですか」と座った。そんなに深く考えなかったそうです。

ところが、座っていたら誰かが鋭い視線を向けている事に気がついて、フッと見ると、奥さんがクッッと睨みつけている。「あなた、偽障害者をかたって、身体は全然悪くないのに椅子に座りたいからと、そんな若い女性を騙して椅子に座って楽しいの!?」もう、睨みつけている。その視線があまりにも痛いので、うつむいていました。

次の駅に着いた時、足もとがおぼつかない老婦人が乗って来た。その車両は満員で、誰も席を譲ろうとしません。その老夫人が自分の目の前に来るのですが、彼は躊躇します。今立ったら、偽障害者である事がバレてしまう。それで、ますます床を見るようにしてうつむいていました。
その時、車内全体に響き渡るような奥様の声。「サダオっ! 今すぐ立って、その方に席をお譲りしなさい!」彼女はご主人を呼ぶ時は、いつも名前を呼ばないで、「ねぇ」とか「ちょっとぉ」とか甘えたような呼びかけが多いそうですが、公衆の面前で「サダオっ!」

なぜ自分は皆の目の前で、本名を大声で叫ばれなければならないのか? なぜ彼女はそういう事をしなければならなかったのか? 耐えられなかったのです。何に? 「夫は凛々しい男性であってほしい」という妻としての願いですよ。「情けない男であって欲しくない。 胸を張って堂々たる男であってくれ」という妻としての矜持（きょうじ）というか。もし間違っていると思ったら、その場で改める。それが男らしい事だと。

彼は立ち上がるのですが、もう車内の空気が重くて。その後降りて、プラットフォームに夫婦二人きりになった時、奥さんが目に涙をいっぱい溜めている。「それはいけない。あれは私の夫がする事ではない。私が知っているサダオはそんな事しない。二度とこんな事は止めてね。」「その約束を、私は生涯忘れる事はないだろう」というエッセイ。

僕がやったわけではないのに、ものすごい罪悪感。この罪悪感は一体何だろうって伝わりましたよ。

神様は、私たちをお造りになりました。私たちのこの目は、他人のあら探しをするために造られたのではありません。口は、人の悪口を言うために付けられているのではない。手は、悪事を働くために造られたのではない。足は、蹴飛ばすために備えて下さったのではない。

「わたしは、そんな事をさせるために、あなたを造ったのではない。淫らな事をさせるために、性をつくったのではない。あなたの素晴らしい頭脳は、人を騙すためのものじゃない。神の栄光を現すためのものだ。神のかたちに造られた者として、神に似るような歩みをして欲しい。しかし、ヤコブよ。イスラエルよ…」というこの葛藤。
つまり、「神なんか関係ない」と言って、良心がすっかりフリーズしている人間の良心を呼びさますために、名前で呼びかけているのです。

今、ヤコブ、イスラエルと言いましたが、ユダヤ人は人類の代表です。ですから、私たち一人ひとりに対して、今、神が語りかけているのです。「あなたの今までの人生は、神の栄光を現わすものであっただろうか? 何のために命を与え、人生という猶予期間を・自由を・自由意志を・才能を与えたのか? あぁ、わたしのところに帰って来たらどんなにいいか…」。痛みのこもった呼びかけ。

イザヤ 43:4 わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。
「どんなに破れ果てていても」と聖書は語ります。名をもって呼ぶ神。どんな思いで名を呼んで下さっているのか? 「私たちを建て上げたい。神のかたちに似せていきたい。」そのような思いなんです。

ここにも名前を呼ばれる人の事が書いてあります。
ルカ 19:1-10 それからイエスはエリコに入り、町の中を通っておられた。するとそこに、ザアカイという名の人がいた。彼は取税人のかしらで、金持ちであった。彼はイエスがどんな方かを見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見ることができなかった。 それで、先の方に走って行き、イエスを見ようとして、いちじく桑の木に登った。イエスがそこを通り過ぎようとしておられたからであった。
イエスはその場所に来ると、上を見上げて彼に言われた。「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」ザアカイは急いで降りて来て、喜んでイエスを迎えた。人々はみな、これを見て、「あの人は罪人のところに行って客となった」と文句を言った。
イエスは彼に言われた。「今日、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」

ザアカイは取税人（しゅぜいにん）の頭（かしら）。当時ユダヤの国はローマに支配されていて、税金を搾り取られていました。取税人というのは、この税金を徴収する人たちの事です。ローマに税金を納めるために徴収する人。この仕事を得るのは入札制。つまり、取税人になりたい人がたくさんいたという事。
同胞、仲間を裏切って、ローマにお金を持って行く係にどうしてなりたいのか?

入札制度では、その権利に一番多くお金を払った人がその仕事に就けるのですが、一旦取税人になったらいくらでも上前をはねる事ができる。バックはローマ帝国なので、世界帝国の身分保障の下で、いくらでも私腹が肥やせる。国家権力に守られて、不当に利益を上げているのが取税人で、その頭がザアカイ。
だからみんな「アイツ、大嫌い!」「あいつ、もうイヤ!」「なんだ、こんなヤツ!」と思っていた。
ところが彼は、人々の目には良心を売り渡した人のように映っているけれど、実は人生の転換を願っている人でした。

不良は風紀係りの先生、嫌いでしょ。僕が中学生の時、ほんまに厳しかった。脱獄犯は、警察を見たら逃げるんじゃないですか? 間違った事をして生きている人は、正しい人を見た時に、息苦しくなって逃げて行くんじゃないですか?
イエス・キリスト、人となられた神/救い主がエリコの町に入った時、「俺は悪の生活をこれからもずっと続けていくぞ」と本当に思っているのだったら、イエスがエリコにいる間は、1番奥の部屋に入って鍵をかけて「早く行ってしまったらいいのに」でしょう。会いたくないですよ。

しかしザアカイは「見たい! 知りたい! どんな方なのか、もっと知りたい!」。だけど、背が低かったから見えへん。そこで、いちじく桑の木に登って上から見た。ウグイスにホトトギス。いちじく桑にザアカイ。全然 「いとおかし」くない。「梅の木にホーホケキョ」これはいいですよ。でも、いちじく桑の上でザアカイが「(だみ声で) 主よ」と言っても「なんやねん、オマエ」みたいな。それでも、会いたかった。
人生の転換を願っていたのです。人は見かけによらない。悪人でも「いい事をしたいなぁ」と憧れている面があり、善人でも汚い思いに支配される事がある。善人と悪人、どっちかではない。人間はもっと複雑なもの。

この間カヌーで、禁止薬物を後輩のボトルに放り込んで、その後輩がドーピング検査で陽性になり失格したという事件がありましたね。やったのは鈴木という選手ですが、どうして発覚したと思いますか?
自首ですよ。「僕、こんな事をしてしまいました」。それを言ったら、カヌー協会から永久追放です。
彼には子供が3人います。少年スポーツクラブを経営しているのですが、もう誰も来ません。
捜索の手が伸びて遂にばれたというのではなく、自分で「私がやったんです」。と告白した。

なぜか? 禁止薬物を飲まされた後輩は、鈴木選手に憧れてカヌー競技を始めました。陽性になって失格処分を受け、「もう東京オリンピックに出られないのでは」という事になった時、一番初めに相談したのが尊敬する鈴木選手だったのです。「僕は飲んだ覚えがないのに、こんな事になってしまって。どうしたらいいんでしょう。先輩、助けて下さい! 僕はやってない! 先輩だけでも信じて下さい!」

それを聞いている時、可能性があり、自分を心から尊敬し、信じ切って人生相談してくる、この若い選手の将来の芽を自分が摘んだという事が苦しい。耐え切れなくなって、やった事を全部言いました。
カヌーを漕ぐパドルにヒビを入れて、漕いでも力が出ないようにしたり、パスポートを隠したり、他にもいっぱいあって、ものすごく姑息。インターネットを見ていたら「人間のクズ!」とか書いているけど、僕はそんな事言えません。

僕は鈴木選手と同じような心境になった事、今まで何回もあります。実際には行動に移さなかったけれども、妬みとやっかみで身を焦がすようにして、「くそっ! あいつなんか!」という風に思った事、ありますよ。それを、人々の前で具体的に公表した事なんかありません。彼は、そんなひどい事をやったけど告白する。

人間って、何ですか? 何と複雑なものなのでしょう。清い生き方をしたいという願いを持ちながら、しかし、自分の欲望を達成するためだったら、どんな事でもやってしまいかねません。今まで大きな罪を犯さなかったのは聖人君子だからではない。大きな罪を犯すチャンスが、たまたまなかっただけではありませんか?

私が以前勤めていた商社は古い営業・昭和の営業でした。要するに接待営業。接待ってピンキリ。
クリスチャンとして、できない接待もありますし、しませんでした。

賄賂も上の方でやっているかどうか知りませんが、僕は一切しなかった。クリスチャンとして入社したから。賄賂を貰った事も、渡した事も1回もありません。それは、渡したり貰ったりできるような立場になかったからなんですね。余りにも平社員なので関係ないんです。大きな罪を犯さずに来たのは、自分が清い人格であったからとはとても思えません。特別な誘惑が襲った時に「一体何をしでかしてしまうだろう」という恐れがあるのです。

ザアカイはひどい事をしてしまっているけど、彼の部下であろうマタイという取税人がイエス・キリストの弟子になっていました。「アイツ、取税人だったのに12弟子になっている！ じゃぁ、俺は!?」
声をかける事ができず、上から「あぁ、行ってしまう、行ってしま…、行って…」と思っていたら、イエス・キリストがピタっと止まって、下から上を見上げて。普通は下から神を見上げるのですが、神に見上げられた男。見上げた奴よ、ザアカイ。

「ザアカイ、降りて来なさい。」旅館やホテルに行った時、「いらっしゃいませ」だけではなくて、「いらっしゃいませ、高原様」と名前が付くだけで、すごく歓迎されているという感じがしませんか？ 名札ついてたらあかんで。名札ついてないのに、パッと入った時に「お帰りなさいませ、高原様。」「うわ、覚えてくれてるんや!」。名前を呼ぶという事は最大の歓迎です。

「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」
これは、日本の文化だったら「厚かましい」ってなる。でもユダヤでは、旅人をもてなすというのは最高の文化なのです。人となられた神、救い主イエス・キリストがエリコの町に入った時、そこにはたくさんの邸宅や多くの家屋敷があるのに、それら全てを無視してザアカイを選んだ。

「今日、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。」
「この人もアブラハムの子なのですから」とキリストが言いますが、ユダヤ人なら皆、旧約聖書のある記事を思い出すでしょう。昔、ユダヤ人の先祖だったアブラハムの所に、御使いと受肉前（＊人間として生まれる前）の神キリストが旅人の姿でやって来ます。アブラハムは「どうぞ、家に来て泊まって下さい」。彼らを迎え入れて、手早く調理をして、話をして、楽しくて。

そこで、すごい約束がなされました。「来年の今頃、ここに男の子、生まれてるで!」
神様は大阪弁じゃなくてヘブライ語。その時、隣の幕の後にいたアブラハムの奥さんのサラが「ふふっ。そんなバカな…。」「サラ、なぜ笑ったのか。」「いいえ！ 笑ってません!」という事が書いてあります。

「来年の今頃、約束の子供が生まれるよ!」ものすごく素晴らしい福音を聞いたわけ。「アブラハムが信仰の人・敬虔な人・人格者・神に従順な人だから、そんな約束をしてもらえたんだ。そういう立派な人の所に、神が客人としてお泊りになったというのはあり得る。けど、ザアカイやで。なんで、あんな箸にも棒にも掛からんような、あんな罪人たちの所に行って客となられるのか!?」
イエスの答えは簡単。「この人もアブラハムの子なのですから。」

神様は、人生の出来・不出来によって、私たちを愛したり・愛さなかったりする方ではありません。
神様がなぜ私たちを愛して下さっているのか？ それは、神が愛だからです。私の行動に基づいて愛するか・愛さないかを決めるのではない。神の性格に基づいて、愛して下さっているのです。
「私の人生が上出来だから愛する。でも失敗続きだからイヤになって愛さない」というのではありません。

よく言われている言葉に「過去と他人は変える事ができない」というのがあります。

起こってしまった事と、他人は変えられない。たとえ妻でも息子でも、娘でも親でも兄弟でも。過去と他人は変えられません。家族は血の繋がった他人やからね。自分以外の人だから。一緒に住んでいても、自分以外の人の心を変える事はできません。

昔オリンピックで日本の選手とイスラエルの選手が柔道で闘いました。僕はやっぱり日本の選手を応援します。家内は「イスラエル!」「えぇっ! 貴様、日本人か!」「でもイスラエルっ!」変える事はできない。

人の考えも変える事ができないのに、ましてや、人が神の性格を変える事なんて絶対にできません。
被造物に過ぎない人間が、神のご性質を変える事はできない。神のご性質は愛です。
なので、たとえあなたが、神が自分を愛さないようにと、ありとあらゆる事をしても、それによって神が愛さなくなるという事はないのです。やってみる事はできますよ。失敗します。神が自分を愛さないようにと、人がどんなに努力しても、それは全部失敗に終わります。なぜなら、神キリスト・イエスは昨日も今日も、いつまでも変わらない方だから。あなたに対して、揺るがない愛をお持ちの方なのです。

「今日、あなたの家に泊まることにしているから」これは、素泊まりではない。「泊まるの? 泊まるだけよ」。そんなんじゃない。ザアカイは、「イエス様、いらして下さい」。きっとご馳走が出たに違いありません。ご馳走を黙って食べる、そんなんじゃない。ユダヤ人はよく喋ります。人のコト言えた義理じゃないけど。

昨日、家内は同窓会。30 年振り。「20 年振りって言って」。そんなん、言われへん。真実を語るメッセンジャーだから。で、いつ帰って来るのか。長い。6 時間、7 時間。「何してたん?」「ジャンカラ行って来た。歌いまくってきた。良かったぁ」。私のメッセージの CD を、来られた同窓生全員に配る事ができて良かったねぇと。どうしてそんなに話が盛り上がるかというと、共通の青春時代を持っているからです。
初対面だったら、中々話が続かないんじゃないですか? でも一緒に苦労したり・泣いたり・笑ったり・何かを成し遂げたり・人生の一番キラキラしていた頃、その時代を一緒に過ごした人たちとの再会。
「あの時、あんな事あったよね。」「この時、こんな事あったね。」「あの時、酔っぱらってたね。」「この時も、酔っ払ってたわね。」

ザアカイとイエス・キリストは初対面です。一緒に泊まるという事は交わりをしたいという事ですが、初対面なのに、なぜ交わりができますか? ザアカイの方では、イエス・キリストを見るのは初めてかもしれません。でもイエスは、ザアカイの今までの人生の全ての場面に共におられたからです。神として。
ザアカイがお母さんの胎の中に宿った時から、生まれてきて今日に至るまで、あらゆる場面で。
「わたしはあなたを見守ってきた。あなたが悔しい思いをしている時、わたしも悔しがっていた。あなたが罪を犯してものうのうと暮らしていた時、わたしは心痛めていた。あなたの人生のあらゆる場面に於いて、わたしはそこにいたんだよ」。だから、お互いに分かち合える事がたくさんあるのです。

神は、「あなたと人生を共有したい。人生の全ての苦さ・辛さ・痛さ・喜びを神の人格の前に持ち出して欲しい。交わりをしたいのだ」と願っておられます。しかし、神と忌憚なく交わるためには、どうしてもしなければならない事がある。それは、罪の問題が処分されるという事。
「人の子は、失われた者を捜して救うために来たのです。」
罪の結果から救うために、この方は人となって来て下さいました。神と人との間に遮蔽物となっている罪を抜き去り、それを徹底的に撤去するために、イエス・キリストはこの世界に来て下さったのです。

僕は大阪教育大学の出身ですが、この間新聞に出ていたのは、教員になる確率が日本で一番高い大学。

ぶっちぎりナンバーワン。僕の母校。そして偉大な先輩がおられます。吉岡たすくさん（1915-2000/Ｔ14-Ｈ12　児童文化研究家）『小さなサムライたち』　ご存知ないですか?
彼は小学校 6 年間に 6 回転校しました。毎年毎年転校。家が余りにも貧しかったので、幼稚園とか保育園とか行ってないのですが、近所の子供たちが皆そこから帰ってくる時に、口々にこう言うそうです。
「せんせいって、やさしいよなぁ。せんせいって、いいなぁ。せんせい、だいすき!」「えっ、せんせいって、そんなにいいの?」「せんせい、いいよ。」「ぼくも、はやく、しょうがっこうにいって、せんせいというものにあいたい。」

遂に小学 1 年生。行ったら、担任の先生がキツネみたいな顔していた。なんか狡猾そうな。最後の時間に、先生が「明日持って来る物と宿題、言います。」その時、真っ黒なアゲハチョウがひらひらひら、彼の目の前を通過して行きました。「すごいきれいなアゲハチョウ!」と見とれている間に、「はい、終わり。今日は 1 回しか言いません。」「なんか言うてはったけど、アゲハチョウ、きれかったぁ!」と思って。
翌日、宿題提出の時、吉岡少年だけ出さない。やってない。その時、キツネ先生が何と言ったか?
「あなたが宿題を忘れて来る事は、昨日の段階で分かっていました。」昨日の段階で分かっているんだったら、昨日の段階で教えておいてくれよ。「もう、こんな学校いやや。俺、キツネ先生、嫌いや!」と思っていたら、念願かなって転校になりました。

2 年生の時は男の先生でカバ先生。メチャでかい。大きな先生。学芸会で劇をするのですが、彼は転校生でもあるので、セリフの少ないエキストラ・少年 A みたいな役で殆どセリフがない。ところが、準主役の男の子が突然、何かの伝染病に罹ってしまいました。「熱を出して、しばらく学校に行けません。」
急遽「吉岡。おまえ、記憶力いいから準主役やれ!」2 週間にわたってセリフを覚え、ようやく役が板についてきたと思われた時に、その子が復帰して来た。2 日後が学芸会。その時、カバ先生が何と言ったか?
「吉岡。おまえ、もういいから。」ひと言。「カバめー!」と思っていると、3 年生になった時にまた転校。

今度はキリギリス。顔色が悪く、痩せてガリガリ。冬になったらアリのエサみたいな。この先生が、最初の授業の時に「学校が好きな人、手を挙げて。」みんなが「はーい!」。でも彼は、過去 2 年間の事を考えた時「俺、学校嫌いや」。吉岡君だけが手を挙げなかった。そうしたら「皆さん、手を降ろして。全員が挙げていたのではなかったわね。小学校 3 年生の時から学校が嫌いという人に、ロクな人間はいません。」
「冬よ、早く来い!」みたいな。

4 年生になりました。登場したのはコオロギ先生。声がコオロギみたいにキレイ。大学出たばかりの新卒で、いい匂いがする、お姉さんみたいな先生です。教室に入って来て最初に「皆さんに質問です。学校嫌いな人いる?」彼は 1 年前に経験しているから「ここで挙げたらあかん。」誰も挙げない。
「へぇー、みんな学校好きなの? 実は私、小学校 1 年生の時から学校が大っ嫌いだったのよ。そんな私が今先生してるって、人生不思議でしょ。」不思議な人や。
「私ね、大学出て初めてで、学校の事、先生としては何も知らない。皆さんと一緒なのよ。だから、これから一緒に勉強していきましょうね。」先生の最初の言葉で、ガッチリ心をつかまれた。「この先生なら、どんな事があっても授業休まないぞ! 学校休まないぞ! 歯食いしばってでも行くぞ!」

神戸の小学校だったのですが、当時はプールがありませんでした。それで、水泳の授業は海水浴場に行く。彼はこの時、お腹が痛くて痛くて。でも、コオロギ先生。一日といえども休みたくない。
それで、無理して冷たい海に浸かって。学校に帰る時、もうお腹痛くて。そして、車内で漏らしてしまうのです。大の方を。みんなに分からないように、車両と車両の間にずっと隠れていたのですが、それを目ざとくコオロギ先生が見つけてくれて…。

「みんな、先生は吉岡君とちょっと話があります。親戚の事で急用です。次の駅で降りるから、みんなは隣のクラスの先生に引率してもらって帰って下さい。」

そして、降りて川に向かって黙々と歩きました。川原に着いた時、「洗ってあげるから、パンツとズボン脱ぎなさい。」「先生、いいです、いいです。汚いから。」
その時、コオロギ先生が言った事。「あなた、何言ってるの? あなたはね、私の生徒なのよ。洗わして。」
そして川原で洗って下さった。木切れを拾って来て、竿みたいにして干して「乾くまで待ってようか。」

川原で大の字になって空を見上げていたら、コオロギ先生が「実はね、先生も 1 年生の時に教室でおしっこ漏らしちゃって。担任の先生が、分からないように庇ってくれたのよ。私はその事で学校が好きになって、大きくなったら学校の先生になろうって決めたの。今日はね、吉岡君が洗濯させてくれたから、本物の先生になれたような気がする。」
吉岡少年は何にも言えなかった。何か言ったら涙がボロボロっと出て来そうで、ただただ黙っていたそうです。

ところが、家の都合でまたしても転校。その時に初めて「別れって辛いんだなぁ…。この先生とお別れするの、辛いなぁ。」「転校が、生まれて初めて辛かった小学 4 年でした」と書いてありました。
自分の汚物を喜んで洗ってきれいにして。
「どうして、そこまでしてくれるんですか?」「あなたはね、私の生徒なのよ!」

「ザアカイ、急いで降りて来なさい。わたしは今日、あなたの家に泊まることにしているから。」
「今日、救いがこの家に来ました。人の子は、失われた者を捜して、見つけ出し、救うために来たのです。」

私たちの罪を神様の前に完全に帳消しにするために、神イエス・キリストは、私たちの罪を背負って十字架にかかって下さいました。ご自分の命で、私たちの命の罪の弁償をして下さったのです。
十字架そのものは喜ばしいものではないけれども、あなたを取り戻すために、あなたを庇って、あの十字架にかかって死んで下さった方。墓に葬られて下さった方。そして 3 日目に復活なさった方。
それがイエス・キリスト。一般論の話ではなく、名を呼んで、呼びかける方。
今日、皆さんお一人おひとりがキリスト・イエスに呼ばれているのです。

いかかですか? キリストはあなたに必要ありませんか? あなたの罪は、もう処分されていますか?
罪の解決・死の問題の解決は、イエス・キリストだけにあります。キリストはそれを既に成し遂げて、皆さんに提供して下さっています。
どうぞ、このイエス・キリストを自分の救い主として受け入れて、正真正銘の新しい年を迎えて下さい。
心からお勧めします。

^^

＊動画の検索は「HCA 東住吉キリスト集会」 ぜひ見て下さい。
＊ラジオ番組「聖書と福音」（15 分）も是非どうぞ。スマホでいつでも聞けます。動画筆記：Rumi